

# 知的障がいと肢体不自由を併せ有する 特別支援学校中学部生徒の自己刺激行動を 減らすための支援



# 生徒の実態

## ■ 中学部生徒

発達性協調運動障害、自閉症スペクトラム、知的障がい。

- 曲を聴くこと、他者と手をたたくこと、食べることが好き。
- 支援者に言葉や動作で意見や気持ちを伝えたり、援助要求をしたりすることはないが、泣いて伝えようとしたり、欲しい物を手に取ったりすることがある。
- 移動する時や活動に取り組む時に、身体ガイダンスと声かけの支援があると、教員と一緒に取り組むことができる。
- 音が鳴る物（たいこ・ハンドスピナー）をたたいたり、教員の手に自分の手をあてて、手たたきをしたりすることがある。
- 曲を聴いて、体をゆらしたり手拍子をしたりすることがある。
- 教員と一緒に、席に座って一つの課題に取り組める時間は5分程度である。
- 提示された具体物や人の顔を注視することは少ない。

# 事例に取り組もうと思った理由

- 保護者のニーズ

頭をたたかずに日常生活を過ごせるようになってほしい。

- 教員の願い

本生徒の頭をたたく行動を減らしたい。

# 記録表①

- ベースラインの記録をとることからスタート

- 記入の仕方

学校生活を時間で  
13分割し、  
“頭をたたく”行動が  
あったかなかったかを、  
時間ごとに○を付けて  
チェックする。

日付 7 (11月20日 水曜日) “頭をたたく”が  
あったか、なかったか

8:45~9:10	朝のじゅんび	あり or なし
9:10~9:50	1時間目	あり or なし
9:50~10:00	休み時間	あり or なし
10:00~10:40	2時間目	あり or なし
10:40~10:50	休み時間	あり or なし
10:50~11:30	3時間目	あり or なし
11:30~11:40	休み時間	あり or なし
11:40~12:20	4時間目	あり or なし
12:20~13:30	給食&休憩	あり or なし
13:30~14:10	5時間目	あり or なし
14:10~14:20	休み時間	あり or なし
14:20~14:50	6時間目	あり or なし
14:50~15:30	帰りの会・下校	あり or なし



# 記録表②

スライド4の記録表で示した13分割した時間において、“頭をたたく”行動が起こった時の、その詳細を書く。

11月6日 水曜日 / 11月の場面 ( 体 ) / 3分 ( 高い・わるい ) / 記録者							
賞せい レベル	A. たたくの前 (活動内容 ・環境 ・教員の変換等)	たたくの 強度	自分でやめた or 教員がとめたか ※生徒が5回以上 たたいたらとめて下さい	自分で やめた時 何回で やめたか?	C. 結果		機能 分析
					支援の 方法	生徒の 様子	
① 高・中・低	・1分ほど すわっていた ・Tのはなし	強・中・弱	自分で やめた or 教員が とめた	3 回	みまの	おらう いる	感覚・要求 逃避・注目 (備考 ひま)
② 高・中・低		強・中・弱	自分で やめた or 教員が とめた	4 回			感覚・要求 逃避・注目 (備考)
③ 高・中・低		強・中・弱	自分で やめた or 教員が とめた	4 回			感覚・要求 逃避・注目 (備考)
④ 高・中・低		強・中・弱	自分で やめた or 教員が とめた	4 回			感覚・要求 逃避・注目 (備考)

★ 賞せいレベルの基準 → ① 高 体をゆらす、声をたす、激しく手拍子をする、走る等  
② 中 目が見開いている、軽く手拍子をする、教員とスムーズに歩く等  
③ 低 動かない、静か、目が半分闭まっている等

★ 頭をたたくの基準 → ① 強 たたくスピードがはやい、衝撃があり、痛そう  
② 中 幼児が肩にたたくぐらいの力加減  
③ 弱 たたくスピードおそく、衝撃なし、触れただけ

“頭をたたく”があった日付けと授業名と回数 (ステップⅠのベースライン)  
 10月28日月曜日～11月6日水曜日の記録 7日間

時間	時間帯と回数	日付けと授業名と回数
8:45～9:10	朝の準備 3	5日2回、1日1回
9:10～9:50	1時間目 1 (ストレッチ)	5日1回
9:50～10:00	休み時間 3	1日2回、29日1回
10:00～10:40	2時間目 7	6日表現練習2回、1日自立2回、31日国語2回、 30日表現練習1回
10:40～10:50	休み時間 0	
10:50～11:30	3時間目 6	6日修旅事後学習1回、1日生単2回、30日日生1回、 28日集会2回
11:30～11:40	休み時間 1	1日1回
11:40～12:20	4時間目 3	6日体育ボッチャ1回、1日生単2回
12:20～13:30	給食&昼休み 6	28日昼休み4回、29日昼休み1回、31日昼休み1回
13:30～14:10	5時間目 4	5日表現練習1回、31日中学校との交流2回、 29日ムーブメント1回
14:10～14:20	休み時間 0	
14:20～14:50	6時間目 1	5日日生1回
14:50～15:30	帰りの会・下校 3	5日帰りの会2回、28日帰りの会1回

合計 38回 11月6日以降も、記録をとり続けている。

## “頭をたたく”の機能分析（ステップⅠのベースライン）

10月28日月曜日～11月6日水曜日の記録 7日間

### ■ 感覚 28

（手持ちぶさたな時…20、曲の途中…4、曲の終わり…1、？…3）

### ■ 逃避 4

### ■ 要求 6

### ■ 注目 0

## “頭をたたく”があった授業名（ステップⅠのベースライン）

10月28日月曜日～11月6日水曜日の記録 7日間

☆ 6回…給食後の休憩：6（手持ちぶさたな時：5回、曲の途中：1回）

■ 4回…表現練習、生単

■ 3回…朝の準備、1時間目後の休み時間、帰りの会

■ 2回…金曜の自立、集会、木曜の国語、交流学习

■ 1回…1時間目のストレッチ、火曜の日生（読書カード制作）、  
火曜の音楽（ムーブメント）、水曜の日生（掃除）、  
水曜の体育（ボッチャ）、修学旅行事後学習、  
3時間目後の休み時間

# 記録からわかったこと

- 頭をたたいた時の覚醒レベルは、高いが1回、中が34回、弱いが3回で、中が多かった。
- 頭をたたいた時の強度は、強いが1回、中くらいが26回、弱いが11回で、中くらいが多かった。
- “頭をたたく” 行動を自分でやめた回数は27回、5回以上頭をたたき、教員がとめた回数は11回であった。
- 頭をたたいた後、教員の見守りのもと、落ち着いていた回数は、38回中、23回であった。



# 記録から推測されること

- 覚醒レベル中の状態で、本生徒の机の上にハンドスピナーをつけて回していると、5分程、椅子に座っていらられるかもしれない。それ以上の時間になると、席を立って歩いたり、“頭をたたく”が起こりやすくなったりするのかもしれない。
- 覚醒レベル中の状態で、支援なしで、椅子に座っていられる時間は1～2分程かもしれない。  
それ以上の時間になると、席を立って歩いたり、“頭をたたく”が起こりやすくなったりするのかもしれない。
- 覚醒レベル中の状態で歩いている時は、“頭をたたく”行動が起こりにくいかもしれない。
- 曲が流れている途中や、曲が終わった後に、“頭をたたく”が起こりやすいのかもしれない。
- 頭をたたくと、落ち着くのかもしれない。

# “頭をたたく” がなかった授業名（ステップⅠのベースライン）

10月28日月曜日～11月6日水曜日の記録 7日間

- |         |            |         |       |
|---------|------------|---------|-------|
| ■ 給食    |            | ■ 火曜の数学 | 2校時   |
| ■ トイレ   |            | ■ 火曜の作業 | 3・4校時 |
| ■ 月曜の国語 | 2校時        | ■ 水曜の作業 | 3・4校時 |
| ■ 月曜の自立 | 4校時（ボウリング） | ■ 木曜の自立 | 3校時   |
| ■ 月曜の数学 | 5校時        | ■ 木曜の体育 | 4校時   |
| ■ 月曜の日生 | 3校時（図書室）   | ■ 金曜の美術 | 5・6校時 |

## 上手くいっている支援の方法（数字は、取り組む順番を示している）

- 火曜の数学
  - ①ビジョントレーニング→②課題4つ→③休憩（5分）  
→④課題4つ→⑤片付け→⑥休憩（5分）→⑦トイレ
- 作業
  - 休憩する間なく、取り組む活動あり

# 本生徒の行動レポートリー

## ☆一人で取り組める活動

- 歩く
- 座る
- 立つ
- ボールを持つ
- スプーンを持って食べる
- 両手をたたく

等

## ☆支援者と一緒に安定して取り組める活動

- 目的地まで歩く
- 食べる
- 取っ手を持つ
- 水やり
- フローリングワイパーを使って床を磨く
- 水筒を持ってお茶を飲む

等

ステップⅠの支援  
に生かした

ベースラインの記録 等より

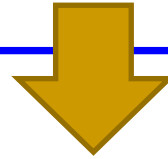
## “頭をたたく” 行動が起こりにくい場面の仮説

- 覚醒の状態が安定している時
- 手を使う活動に取り組んでいる時
- 支援者と一緒に活動に取り組んでいる時
- 好きな活動（食べる、楽器をたたく、他者と手をたたく）に取り組んでいる時
- 歩いている時

これらの場面は  
“頭をたたく”  
行動が起こりにく  
いかもしれない。



- “頭をたたく”が多かった給食後の昼休みを、指導場面とする。
- 上手くいっている支援の方法（スライド10・火曜の数学）を、ステップ1の支援に生かす。
- 本生徒の行動レポーター（スライド11）を、ステップ1の支援に生かす。



## ☆ステップ1において

- ・ 13：15～13：30まで、3～4分刻みで学習場面を4つ設定する。
- ・ 学習は、教員と一緒に行う。
- ・ 強化（褒め言葉）は、学習後だけでなく、学習途中にも行う。

**担当教員： 学級担任**

## 指導場面：昼休み（13：15～13：30）

- ・教える手順を時系列に書く
  - ・修正の仕方を書く
- 等

## B (指導目標)

- ・ 2～3週間で達成できる具体的な目標を記入する

## C (結果)

- ## ・強化の仕方

○ステップ1  
・事前に昼休み（13：15～13：30）のスケジュールを決めておく。

※スケジュール（3～4分刻みで4つの活動を設定する。）

- ①水やり 13:15~13:19(4分)  
教室の水道でジョーロに水を入れ、ジョーロを持ちながら  
教室から中庭へ6m歩いて、畑に水やりをする。
- ②床磨き 13:19~13:23(4分)  
フローリングワイパーを使って、教室の床磨きをする。
- ③お茶タイム 13:23~13:27(4分)  
水筒が入ったバッグを持ち、中ホールのソファに行き、  
スポーツドリンクかお茶を飲む。タイマーがなったら、  
バッグを持ち、教室に帰る。
- ④休憩 13:27~13:30(3分)  
(月曜、木曜、金曜)自分の椅子に座る。  
(ハンドスピナーあり)
- ⑤他教室に移動 13:27~13:30(3分)  
(火曜、水曜)他教室に歩いて行く。
- ・活動始める時は、具体物(水やり→ジョーロ、床磨き→  
フローリングワイパー、お茶タイム→水筒バッグ、休憩→ハ  
ンドスピナー)を手渡ししながら、「○○します。」と伝える。
- ・①~④の活動は、声かけと身体ガイダンスで取り組むよう  
促す。

- ・床磨き、お茶タイム、休憩の終了は、タイマーをセットして鳴らして伝える。
- ・教員の声かけと身体ガイダンスを受けて活動に取り組むことができている時や最後まで取り組めた時は称賛する。
- ・活動の途中で頭をたたいた時は、たたいた後、再びその時していた活動に取り組むよう声かけと身体ガイダンスで促す。5秒間取り組めたら、次の活動に取り組むよう声かけし、具体物を手渡す。

昼休み、15分間、  
教員と一緒に、  
スケジュールに  
そって4つの活動に  
取り組むことができる。

・「そうそう」  
褒め言葉  
（活動途中。活動  
に取り組めている  
こと自体を称賛す  
る。）

・「できたね。」  
褒め言葉  
(活動後。)

**教材：**ジョーロ、フローリングワイパー、  
コーン2つ、水筒バッグ、ハンドスピナー、  
タイマー、カゴ2つ



学年・生徒氏名（イニシャル）：      〇年・ A

担当教員：      学級担任

指導目標：昼休み、15分間、教員と一緒に、スケジュールに  
そって4つの活動に取り組むことができる。

指導場面： 昼休み（13：15～13：30）

【指導期間】

【達成基準】

【中止・再考の基準】

・ベースライン  
10月28日（月）  
～11月6日（火）

・指導スタート  
ステップⅠ：  
11月18日（月）～

・昼休み、15分間、教員と  
一緒に、スケジュールに  
そって4つの活動に取り組  
むことが、5日間のうち、  
4日できたら達成とする。

・指導開始後、3日  
連続で、4つの活動  
の中で1つでも最後  
まで活動に取り組め  
なかった時は、指導  
目標や指導内容を再  
考する。

【記録表】

記録の取り方：最後までできた（頭をたたくなし）→1点、  
最後までできなかった（頭をたたいた）→0点

スライド15参照

# 結果①記録表

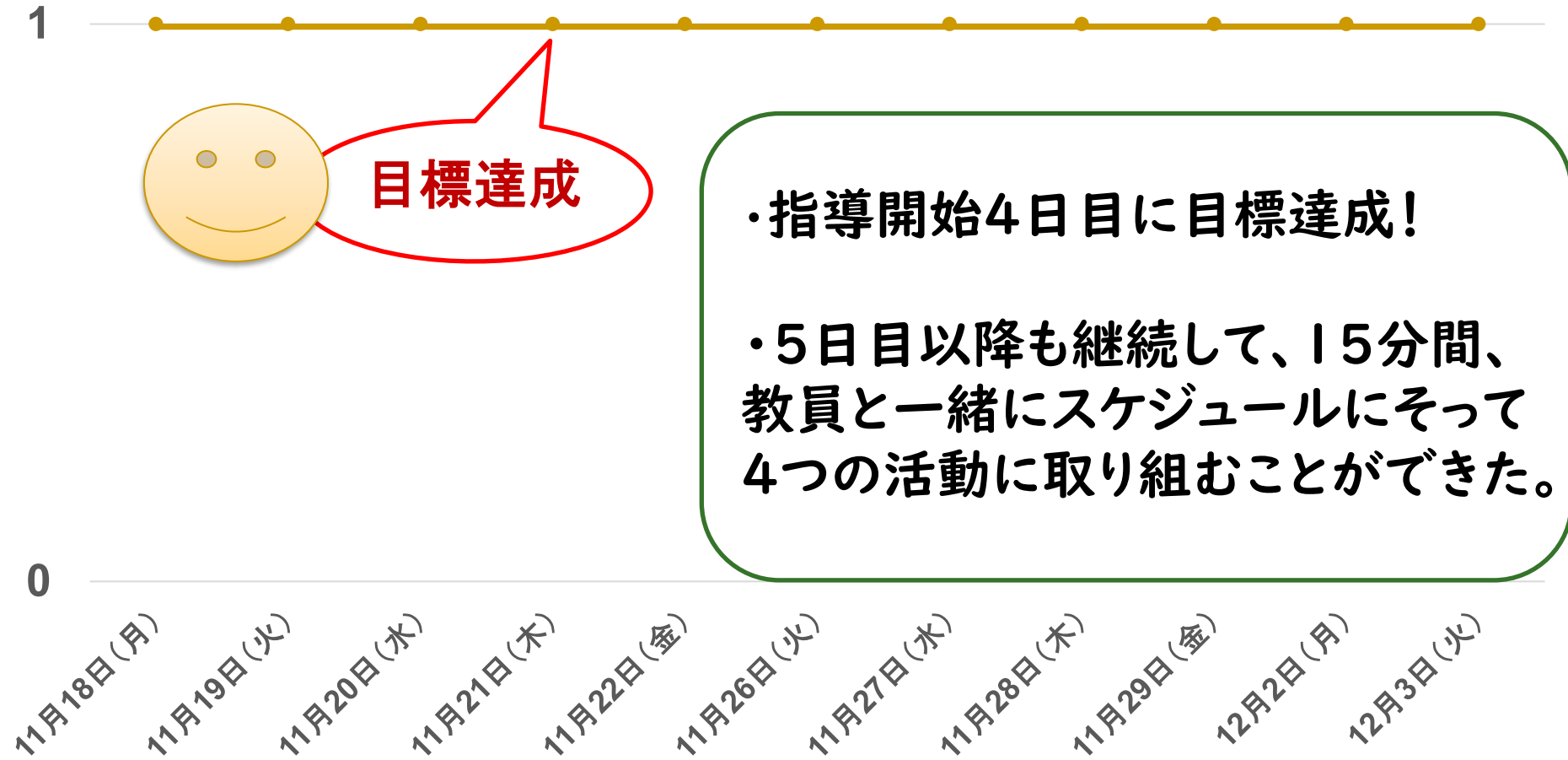
指導目標：昼休み、15分間、教師と一緒に、スケジュールにそって4つの活動に取り組むことができる。  
最後までできた→1点、最後までできなかった（頭をたいた）→0点

	11月18日(月)	11月19日(火)	11月20日(水)	11月21日(木)	11月22日(金)	11月26日(火)	11月27日(水)
水やり	1	1	1	1	1	雨	1
時間	13:15~13:19	13:14~13:18	13:15~13:18	13:15~13:18	13:15~13:18	13:~13:	13:18~13:21
床磨き	1	1	1	1	1	1	1
時間	13:19~13:23	13:18~13:22	13:18~13:22	13:18~13:23	13:18~13:22	13:15~13:20	13:21~13:24
お茶タイム	1	1	1	1	1	1	1
時間	13:23~13:28	13:23~13:27	13:27~13:27	13:23~13:28	13:23~13:29	13:20~13:27	13:24~13:27
休憩or移動	1	1	1	1	1	1	1
時間	13:28~13:30	13:27~13:30	13:27~13:30	13:28~13:30	13:29~13:30	13:27~13:30	13:27~13:30
備考							

4つの活動・・・水やり、床磨き、お茶タイム、休憩or移動

# 結果②グラフ

(点) 昼休み、15分間、教員と一緒に、スケジュールにそって4つの活動に取り組むことができたかどうか



できた(頭をたたくなし)・・・1点、できなかった(頭をたたくあり)・・・0点

# 考察

- 行動レパートリーの中から、支援者と安定して取り組める活動をスケジュールに導入したことが、効果があったと考えられる。
- 本生徒の集中して取り組める時間を考慮し、1つの活動に取り組む時間を3～4分間にしたことが、効果があったと考えられる。



“頭をたたく”があった授業名と回数 (ステップ2のベースライン)  
 11月7日木曜日～11月22日金曜日の記録 14日間

授業名	11月7日(木)～11月15日(金)	11月18日(月)～11月22日(金)	合計
朝の準備	4	0	4
朝の会	2	0	2
1時間目 ストレッチ	1	3	4
2時間目後の 休み時間	1	0	1
3時間目後の 休み時間	0	1	1
5時間目後の休 み時間	2	0	2
帰りの準備	1	0	1
帰りの会	0	2	2
月曜の国語	0	1	1
集会	0	3	3
火曜の音楽	0	3	3
火曜の日生	1	1	2
☆水曜の体育	0	2	2
水曜の作業	1	0	1
☆木曜の体育	6	0	6
金曜の自立	1	0	1
金曜の生単	2	0	2
☆表現の練習	6	9	15

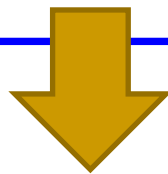
ステップ2へ



# “頭をたたく”があった水曜と木曜の体育（ボッチャ）の機能分析

- 感覚 4（手持ちぶさたな時・・・3、  
曲の終わり・・・1）
- 逃避 4（お腹がすいていたのかもしれない）
- 要求 0
- 注目 0

- 体育のボッチャの活動が、学習機会が少なく待ち時間が多い。ボッチャの中で活動を設け、待ち時間を少なくしたらどうか。
- ステップ1で、スケジュールを設定すると“頭をたたく”行動がなくなったので、スケジュールを設定したらどうか。
- “頭をたたく”にかわる代替行動があれば、頭をたたくことを防げるのではないか。



## ☆ステップ2において

- ・ ボッチャの活動の中で、係活動（友達にボールを渡す）を設定する。
- ・ “頭をたたく”にかわる行動→“教員と手をたたく”におきかえる。

学年・生徒氏名（イニシャル）： ○年・ A

**担当教員： B**

## A（環境設定や教示）

- ・教える手順を時系列に書く
  - ・修正の仕方を書く
- 等

○ステップ2 前半：11：40～11：50

- ・T1の「体操をします」の声かけがあったら、「体操をします」と声をかけ、両手を持ち、身体ガイダンスで席から立つよう促す。
- ・曲が流れたら、両手を持って一緒に体を揺らしたり、手をたたいたりしながら、体操に取り組むよう促す。
- ・体を揺らしたり、教員と一緒に手をたたいたりしながら最後まで体操に取り組めたら称賛する。
- ・頭をたたきそうになった時は、頭をたたこうとする手に、教員の手をあてて手をたたき、手たたきするよう促す。

後半：11:50～12:20

- 【係活動の時】 後午：11：50～12：20
- ・ポッチャのグループ練習と試合が始まる前に、ボールを提示し、ボールを友達に渡す係をすることを伝える。
  - ・練習と試合が始まったら、身体ガイダンスで、ボールを友達に渡すよう促す。
  - ・友達にボールを渡すことができたなら称賛（褒め言葉＋手たたき）する。

### 【投球する時】

- ・ 投球する順番がきたら、ランプの横に立つよう身体ガイダンスと声かけで促す。
- ・ ランプの上でボールを持つよう身体ガイダンスで促し、「手を離す」と声かけする。
- ・ 声かけから10秒以内に投球できたら称賛（褒め言葉＋手たたき）する。
- ・ 10秒以内に手からボールを離さない時は、身体ガイダンスで投球するよう促す。

### 【係活動と投球する時】

- ・友達にボールを渡そうとする時や、投球しようとする時に頭をたたきそうになったら、頭をたたこうとする手に、教員の手をあてて手をたたき、手たたきするよう促す。

**指導場面：体育（11：40～12：20）**

## B (指導目標)

- ・ 2～3週間で達成できる具体的な目標を記入する

前半：11:40~11:50

- ・体をゆらしたり、教員と一緒に手をたたいたりしながら、最後まで体操に取り組むことができる。

(場面：体操)

後半：11:50~12:20

- ・ボッチャにおいて、  
係活動（友達にボール  
を渡す）に取り組んだ  
り、順番がきたら投球  
したりすることが最後  
までできる。

(場面：練習、試合)

## C (結果)

- ## ・強化の仕方

- ・「そうそう」  
褒め言葉  
（活動途中。活動に  
取り組んでいること  
自体を称賛する。）

- ・「最後まで体操できたね。」  
「友達にボールを渡せたね。」  
「投球できたね。」  
褒め言葉＋手たたき  
(活動後。)

教材：椅子、ボール、カゴ、ランプ

学年・生徒氏名（イニシャル）：      ○年・    A

担当教員：      B

指導目標：  
・体をゆらしたり、教員と一緒に手をたたいたりしながら、最後まで体操に取り組むことができる。  
・ボッチャにおいて、係活動（友達にボールを渡す）に取り組んだり、順番がきたら投球したりすることが最後までできる。

指導場面：    体育（11：40～12：20）

【指導期間】

・ベースライン  
11月7日（木）～  
11月22日（金）  
  
・指導スタート  
12月4日（水）、5（木）、  
11（水）、12日（木）、  
18日（水）、19日（木）  
  
※19日（木）の体育は、  
11：40～12：00まで

【達成基準】

・体をゆらしたり、教員と一緒に  
手をたたいたりしながら、最後まで  
体操に取り組むことが5回中4回で  
きたら達成とする。  
（場面：体操）  
・ボッチャにおいて、係活動（友達  
にボールを渡す）に取り組んだり、  
順番がきたら投球したりすることが  
5回中4回、最後までできたら達成  
とする。  
（場面：練習、試合）  
※3場面において、頭をたたかず最  
後まで活動に取り組めることが条件

【中止・再考の基準】

・指導開始後連続3日  
で、2つの指導目標  
ともに、1点か0点  
の時は、指導目標や  
指導内容を再考する。

【記録表】

記録の取り方：頭をたたかず最後まで活動に取り組めた→2点、活動途中で頭をたたいたが最後まで活動に取り組めた→1点、活動途中で頭をたたき、最後まで活動に取り組めなかった→0点



# 結果①記録表

指導目標：①体をゆらしたり、教員と一緒に手をたたいたりしながら、最後まで体操に取り組むことができる。

②ポッチャにおいて、係活動（友達にボールを渡す）に取り組んだり、順番がきたら投球したりすることが最後までできる。

頭をたたかず最後まで活動に取り組めた→2点、活動途中で頭をたたいたが最後まで活動に取り組めた→1点、活動途中で頭をたたき、最後まで活動に取り組めなかった→0点

記録者				記録者			
12月4日(水) 4時間目				12月5日(木) 4時間目			
点数に○をつける	頭をたたこうとした回数 (正の字で書く)	頭をたたいた回数 (頭を1回たたいたら、 教員が手拍子する。それが何回あったか、正の字で書く)	備考	点数に○をつける	頭をたたこうとした回数 (正の字で書く)	頭をたたいた回数 (頭を1回たたいたら、 教員が手拍子する。それが何回あったか、正の字で書く)	備考
・あいさつ ・Tの話し	2・1・0		13さい、おちついてる	2・1・0			おちついてる
時間	11:40~11:43		2番、曲、大きいお	11:38~11:40			
・体操	2・1・0		→Tの多たに	2・1・0			おちついてる
時間	11:43~11:48			11:40~11:45			すわっていきなり
・練習	2・1・0		なませむ ↓ すこしずつ ↓ おちつく	2・1・0			・ふたりのTのせつめい ・もたに ・ボールをわたすにむく とき
時間	11:48~12:00			11:45~12:00			
・休憩 (お茶を飲む)	2・1・0		おちついてる	2・1・0			おちついてる
時間	12:00~12:03			11:50~11:52			
・試合	2・1・0		とらわす グズグズ おちつく	2・1・0			おちついてる ↓ グズグズ おちつく
時間	12:03~12:07			11:52~12:08			
・Tの話し ・あいさつ	2・1・0		・他の生徒が なっている声 をきいて、おちつく	2・1・0			おちついてる
時間	12:08~12:20			12:08~12:10			

その時間にTの手をたたこうとすることあり。それにたいして。

自分からTの手をたたこうと。  
↓  
1分Tに→まだよく



結果②表

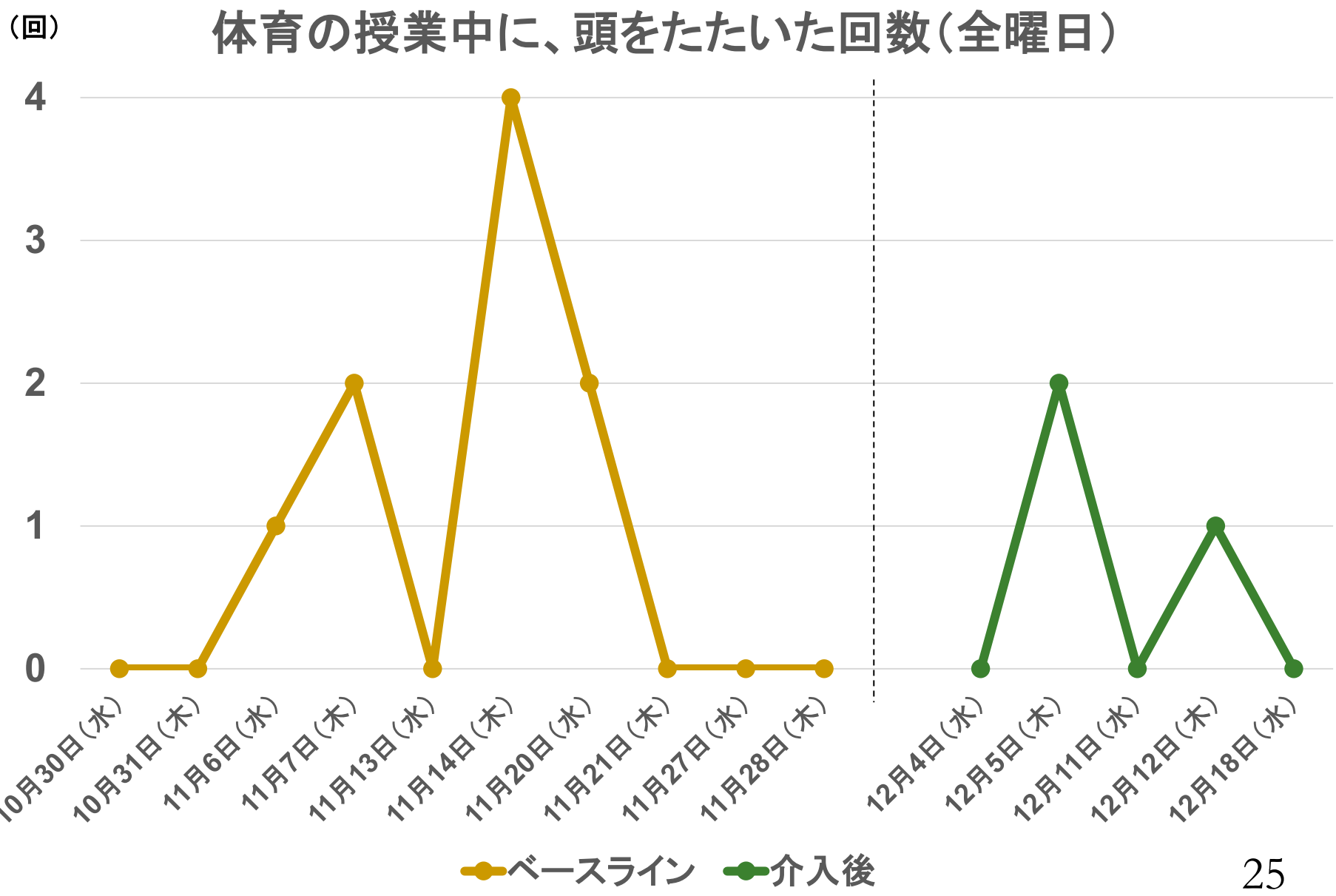
点

回数

	挨拶・ T I の話し	体操	練習	休憩 (お茶)	試合	T I の話し・挨拶	頭をたたこうと した回数	頭をたたいた回数	備考
12月4日 (水)	2	2	2	2	2	2	0	0	・朝からきげんよい ・3時間目、図書室
12月5日 (木)	2	2	1	2	2	2	2 (試合時の最後のT I の説明で、席に座っている時2)	2 (練習時の最初のT I の説明で席に座っている時1、友達にボールを渡しに行く時1)	・朝、家で覚醒が高い ・頭をたたいたスピードが速い ・3時間目、写真撮影
12月11日 (水)	2	2	2	2	2	2	1 (試合時の最初のT I の説明で、席に座っている時1)	0	・睡眠よくとれている ・3時間目、図書室
12月12日 (木)	2	2	1	2	2	2	6 (練習中、最後に席に座った時1、試合の係活動中3、試合の投球前1、試合後、席に座っている時1)	1 (練習時の最初のT I の説明で席に座っている時1)	・睡眠よくとれている ・頭をたたいたスピードが速い ・3時間目、歩行
12月18日 (水)	2	2	2	2	2	2	1 (最初のT I の説明で、席に座っている時1)	0	・睡眠よくとれている ・3時間目、図書室
12月19日 (木)	2	2		2		2	0	0	・朝からきげんよい ・3時間目、歩行 (12日より歩いた距離短い)

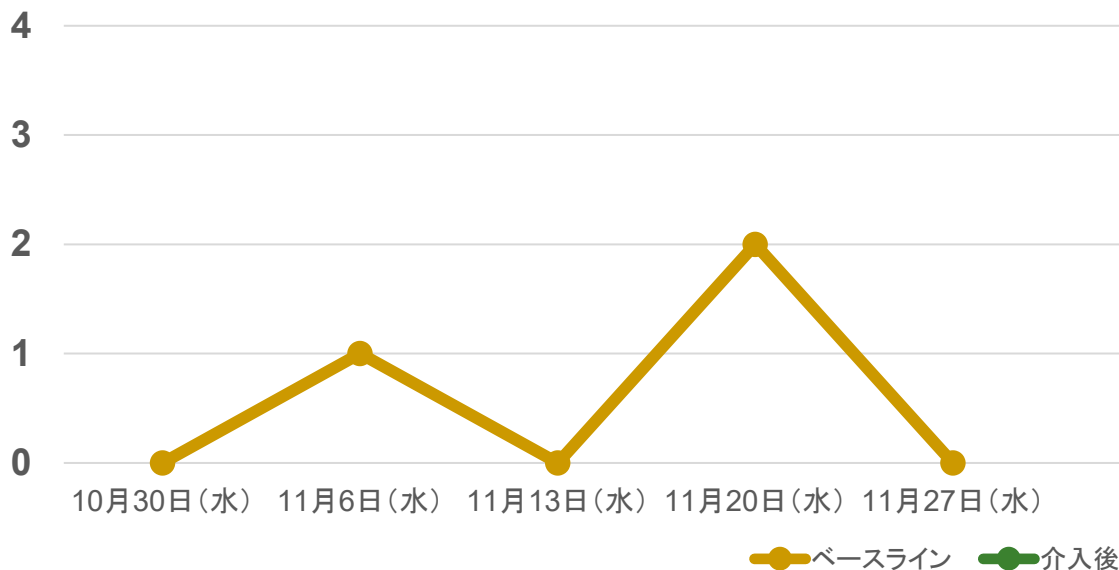
頭をたたかず最後まで活動に取り組めた・・・2点  
活動途中で頭をたたいたが最後まで活動に取り組めた・・・1点  
活動途中で頭をたたき、最後まで活動に取り組めなかった・・・0点

# 結果③グラフ

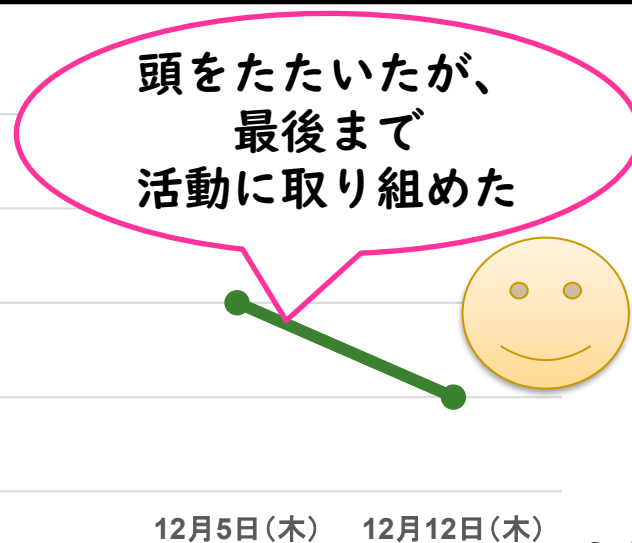
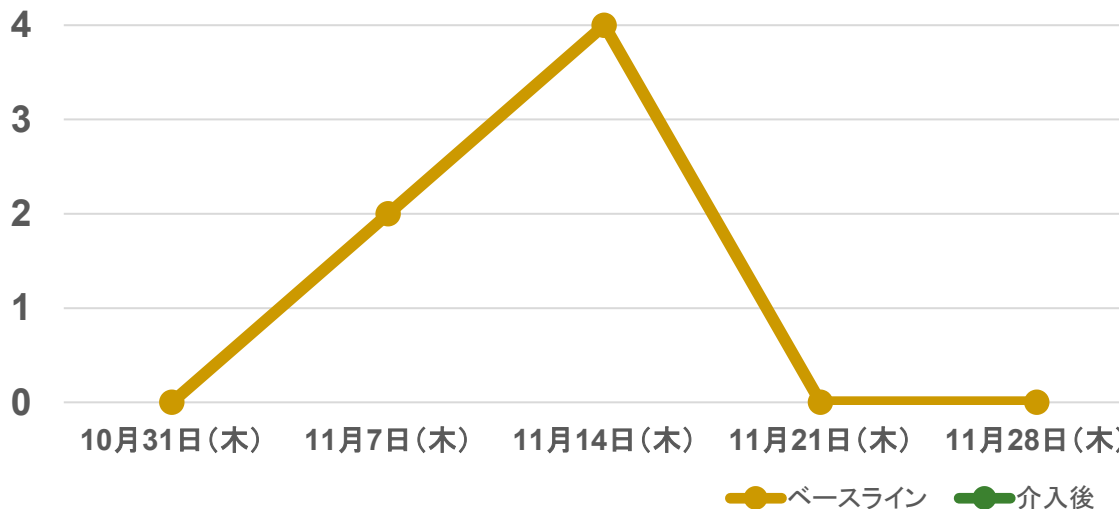


# 結果④グラフ

(回) 体育の授業中に、頭をたたいた回数(水曜日)



(回) 体育の授業中に、頭をたたいた回数(木曜日)



# 結果⑤記述

- 体操は、指導開始初日から、頭をたたこうとしたりたたいたりせずに、最後まで体操に取り組むことができた。  
指導開始4日目に目標達成となった。
- 練習は、5日（木）と12日（木）に頭をたたくことがあったが、最後まで2つの活動（係活動、投球）に取り組むことができた。  
4日（水）、11日（水）、18日（水）は、頭をたたこうとしたりたたいたりすることなく、最後まで2つの活動（係活動、投球）に取り組むことができた。
- 試合は、5日（水）、11日（水）、12日（木）に頭をたたこうとしたが、全ての日において、頭をたたくことなく最後まで2つの活動（係活動、投球）に取り組むことができた。
- 12日（木）は、頭をたたこうとした回数が6回あり、他の日に比べると、頭をたたこうとする回数が多かった。
- 席に座っている時に、頭をたたこうとしたり頭をたたいたりすることが多かった。

# 考察

- 水曜日3時間目は、図書室でソファに座って絵本の読み聞かせをしており、体をあまり動かしていないため、4時間目に、頭をたたこうとしたりたたいたりする回数が少ないと考えられる。
- 木曜日3時間目は、歩行をしており、体をよく動かしているため、4時間目に疲れたりお腹が空いたりして、頭をたたいたりたたこうとする回数が増えると考えられる。
- 体育の前の授業の活動内容が、体育時の頭をたたいたりたたこうしたりする回数に影響を及ぼすと考えられる。  
→体育の前の授業の活動内容を考慮し、体育で係活動をするかどうかの判断や係活動に取り組む時間の調整をするとよいと思われる。
- 頭をたたこうとした時に教員と手たたきするようにしたこと、頭をたたく行動を減らすことができた。  
→ “頭をたたく” を、“教員と手をたたく” におきかえたことは、頭をたたく行動を減らすことに有効であると考えられる。



# 本生徒への今後の支援

- 活動内容に関する具体物（トランジッションアイテム）を手渡して次の活動内容を伝えたり、スケジュールを設定したりする。



- 生徒の様子を考慮して、活動の内容、量、時間を調節する。

# 今回の事例研究で学んだこと

- 生徒の実態把握（発達検査、観察）
- 教員の指導力アップ
- 共通理解を図って生徒の支援に取り組むことができるシステムの維持

生徒を支援する  
時に必要

